2024 年度　日本財団助成事業
NPO 法人　大阪精神障害者就労支援ネットワーク

発達障害的特性の高い学生に対する就労支援プログラム及び実装のプロセスに関する

啓発研修についての報告書

【事業名】

発達障害的特性の高い学生への就労支援プロセスの社会実装

【事業内容】

発達障害的特性の高い学生に対する就労支援プログラム及び実装のプロセスに関する啓発研修

【趣旨】

本研修は、JSN の発達障害支援事業を活用していただいている大学の関係者様にご登壇を依頼し、発達障害的特性の高い大学生の（就職）支援にどのように活用しているかの報告となった。すでに実装なされている大学関係者や外部支援機関側である就労支援関係に対象都市学内で行う支援がより充実したものになることと、現状の課題と展望を整理していくものとなった。

【研修名】

実践事例で学ぶ発達障害的特性の高い学生に対する就職支援実践報告会

～外部機関と連携した就職支援プログラム実践の好事例～

【開催日】

2024 年 6 月 27 日（木）14:00～16:00

【開催場所】

新大阪丸ビル別館　3-5 号室

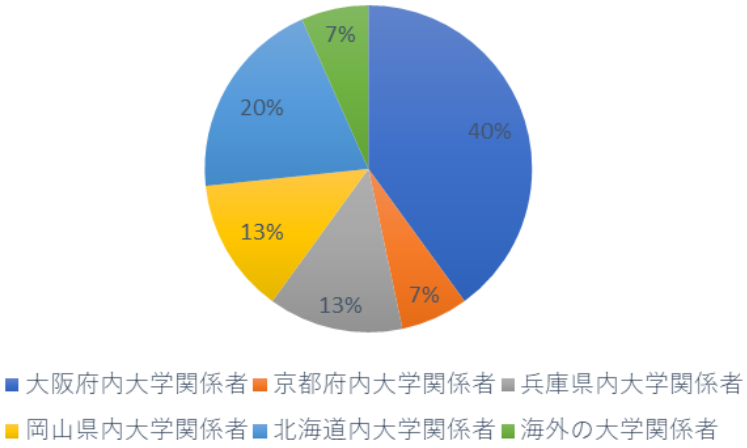
〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島 1 丁目 18 番 22 号

およびオンライン・オンデマンド配信

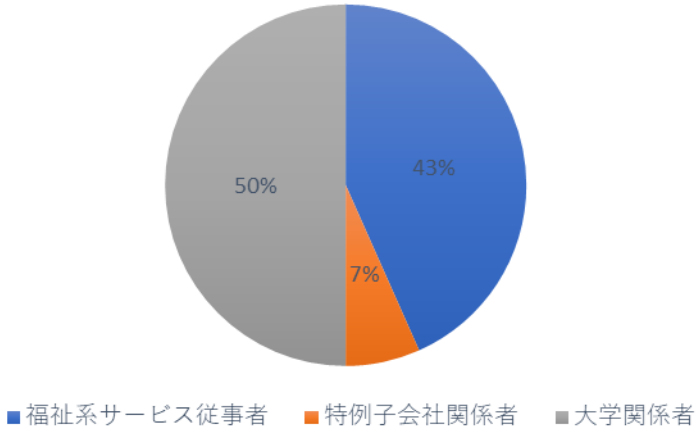
【参加者数】

合計　52 名（現地 15 名、オンライン配信 27 名、オンデマンド配信 10 名）

参加大学の地域内訳



参加者の所属機関内訳



2024 年度　日本財団助成事業
NPO 法人　大阪精神障害者就労支援ネットワーク

【第一部：事例報告　登壇者】

関西大学　学生相談・支援センター　コーディネーター　佐野　寛子　様

信州大学　学生相談センター　障害学生支援室　室長　森光　晃子　様

神戸学院大学　学生支援センター　障がい学生支援コーディネーター　北村　沙緒理　様

【第二部：ディスカッション　司会】

京都大学　学生総合支援機構　准教授

DRC（障害学生支援部門）チーフコーディネーター

HEAP（高等教育アクセシビリティプラットフォーム）ディレクター　村田　淳　様

【総合司会】

兵庫教育大学大学院　学校教育研究科　人間発達教育専攻　臨床心理学コース　准教授

NPO 法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク JSN 地域・企業連携事業部

発達障害支援事業　主任　池田　浩之

【配信 URL】

●第一部

https://youtu.be/Ei51dwCUGj8

第二部

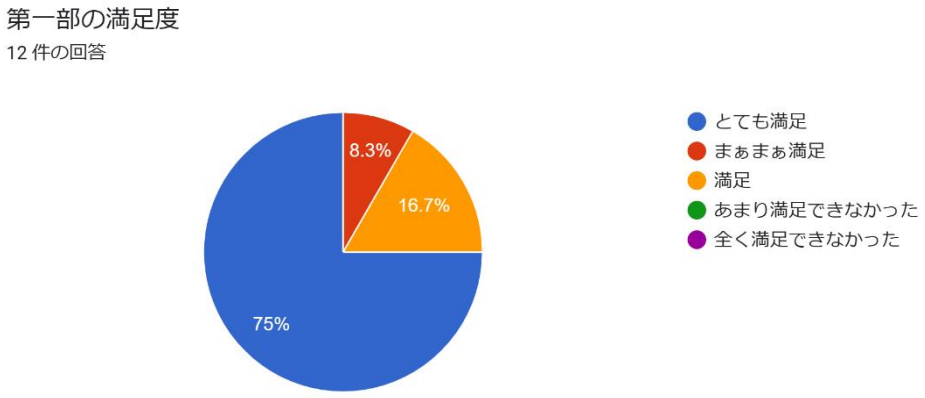
https://youtu.be/2yqriV87PGg

2024 年度　日本財団助成事業
NPO 法人　大阪精神障害者就労支援ネットワーク

【チラシ】

2024 年度　日本財団助成事業
NPO 法人　大阪精神障害者就労支援ネットワーク

【アンケート結果】



●第一部の感想

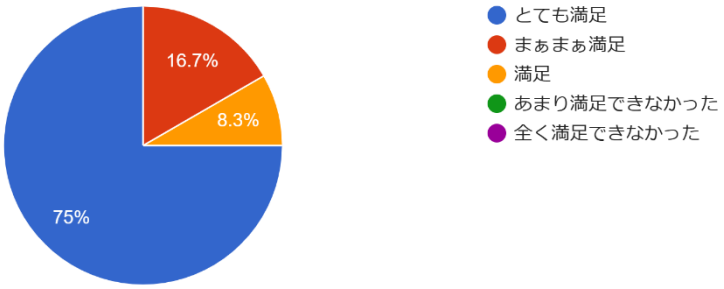
- 学生相談・支援センターさんが学生さんに真摯に向きあい、卒業後も見据えた関わりをされていることが素晴らしいと感じました。
- コミュニケーション養成講座について学ぶことが出来て大変勉強になった。
- 学生にとって安心できる場所でリラックスしてコミュニケーションが取れる場作りが大切だと学ぶことができました。
- キャリアセンターの就労支援との住み分けをされること、連続講座から集中講座に変更された際の効果の違い等　参考にさせていただきました。ありがとうございます。
- 学内プログラムの効果(参加学生の安心感などにつながる)などを知ることができました。
- 外部機関が関わることで、学生の違う側面を見ることができ、コミュニケーション力の向上や新しいことへのチャレンジにも繋がると改めて感じました。
- 修学支援の部署としてこういうプログラムを取り入れたというところにとても前向きな姿勢を感じました。キャリアセンターに行けない学生の窓口というところにも共感しました。一方で連携の重要性も感じました。
- 就労支援というよりはあくまでも修学支援という観点、ピアの大切さというところ、自己理解を深めることで未来に繋がるのだと思いました。
- 複数年開催する中で、見えてきた課題をもとに講座のスタイルや時期を改めて、効果に繋げている点が参考になった。また、連続的な支援という点については、本学も意識して取り組んでいるところなので、大切なことと再認識できた。
- JSN での講座がアルバイトをしようとするきっかけになったことをお聞きし、やはり本人の自信をつけてあげることがいろいろな経験の後押しになるのだと実感しました。

- 大学の状況が知れて良かったです
- 修学支援がベースのお話しかと思いましたが、だからこそ顕在化していない問題が把握できているのだと感じました。
- 学生同士の新たなつながりが生まれだという話が印象的でした。
- 障がいがある学生への支援が充実されていると実感した。
- 全てオンラインで実施されたと伺い、対面にこだわらなくても効果を出すことができることが学べました。
- より実践的な取り組みをされていることがよくわかりました。オンライン実施される際のより詳しい運営の工夫等がお伺いしたかったです。
- 途中中座したためきちんと伺えていないのですが、ピアの効果や職業適性検査を活用して自然と社会を繋げて考えられる講座で良いと思いました。
- キャンパスが離れたところにある中でも行っている実践を聞けて大変参考になりました。コミュニケーション養成講座に、企業の方の話が聞ける機会を設けることは学生の刺激にもなると感じました。
- 2 人で max120km 分散している拠点をオンラインで講座を行うということにいろんな可能性を感じました。ピア活動の中でのメリットがよくわかりました。次は就業体験というところに非常に共感しています。
- 少ない人数で対応されて、ただただ尊敬です。他機関との連携や学生の参加しやすさを意識した取り組み、企業との協働を意識されてる点など参考になりました。
- 講座がピアの役割を果たしている点に共感した。また、外部支援機関への繋がりやすさという視点は新たな気づきになった。
- 講座をお聞きして、確かに卒業後の支援体制など社会の仕組みを知らない学生は多いだろうということは改めて気づかされました。長年、福祉の業界にいると当たり前にあるものと思い込んでしまいそうになるので、再確認ができました。在学中に支援機関に知る、触れることは将来への安心に繋がると思うので、貴重な実践だと感じました。
- 大学の状況が知れて良かったです
- プログラムが自助会的な要素を持つことに意味が深いと感じました。
- 教職員への支援も同時に行い、学生、教職員、支援機関がうまく連携していると感じました。
- 母校の学生支援について学ぶことが出来て、大変参考になった。
- 学生だけではなく、職員の課題解決にも取り組まれていた点が印象的でした。
- 外部機関との連携について具体的にお話が伺え、大変参考になりました。

・　自分のできるところに焦点をあてるという視点を学ばせていただきました。学生同士だけでなく、学内、学外まで、支援の輪を広げるきっかけになっていて、具体的な効果を知ることができました。
・　修学支援から就労支援まで一体的に取り組まれている内容が聞けて良かったです。
・　いつもながら素晴らしい内容でした。当事者だけでなく職員巻き込んだ取り組み、苦労されて確率されたキャリアセンターとの連携、外部を使いながらの内部の充電、有効なインターンシップを考えましょう。
・　支援の軸を移行させていく話もよかったですし、僕が質問をさせてもらった解の、本人が主になっていない、自分を知る、自分を語る、自分で決める経験をしてもらうことや、そこを支えていくとこ、家族へのサポートがなかぽつの役割なのかなと思いました。ありがとうございます！
・　障害のある学生の社会移行支援については本学も大きな課題だと感じているため、キャリアセンターとの円滑な協力体制や教職員の意識の変化へのご尽力に感心しました。
・　企業に求めることについて、学生にインターンシップなどの経験を、とおっしゃっていたのはとても共感しました。身内（学内、支援機関）の立場でのフィードバックだけでは本人になかなか伝わらないことが多いと身に染みて感じています。自身が実際に働いてみて直面する成果や課題などは大きな影響になると思います。
・　大学の状況が知れて良かったです
・　まず、200 名の相談が入ってるという点がすごいと思いました。当校では表に出てきていない問題がかなり多くあるのだと感じました。また、「できる」を知るということの有用さを改めて認識しました。

●第一部で質問やもっと聞きたかった点
・　支援の主軸をキャリアセンターに移行したときの苦労話などあれば、お聞きしたかったです
・　就業経験プログラムは十分か？どうありたいか？
・　皆さん人柄が素敵でなぜこの仕事をしようと思ったのかということをききたかったです！
・　講座を受けた学生の卒業後の進路、状況など。（個人情報の課題はあるかと思いますが
・　行政との取り組みは？

第二部の満足度
12 件の回答



●第二部で参考になった点

- 卒業後を考えて、大学以外の支援者に出会うことが大切と思い、支援していらっしゃる点
- 先生方のディスカッションがとても充実していて勉強になった。
- 学生と保護者の関わりも大切だということに気づきました。
- 大学生だからこその就労支援の難しさがあるのだと感じました
- 各大学の学生の状況と企業側へ求めるものが参考になりました。外部機関と繋がる大切さを感じました。
- 大学における外部機関の活用は、普段近くで関わっている支援者に加え新たな伴走者を得られるという点で、学生にとっては心強いもので、様々な視点から物事を見られるきっかけになり、それが自己理解にも繋がると感じました。
- 職業準備性講座の必要性と外部活用効果
- 全て
- 学内でできそうなプログラムをあえて学外機関にお願いする意義について、各大学から大学以外の支援者に出会う機会となることや、卒業後も色々な人が助けてくれるという安心感が得られること、また、講座に同席することで俯瞰して学生を見てアセスメントをする機会になると話されてたことが参考になりました。
- 関西圏、長野などの地方圏では様々な状況が違ってくると思うので、その個別性に合わせた対応が必要であることが再確認できました。
- 2問目の質問において、例えば大学入学までの学校生活にて支援を受けていたり、学校側が特性のある学生だと認識していた場合に進学先に情報共有ができるような横断的なつながりがあればもっと手厚い関わりができるのでは、と思いました。(かなり理想的な話なので、現実的には難しいと思います)
- 障がいがある学生、グレーな学生への就活状況において、就職を望んでいても就職率が低いという実態を数値で伺えてわかりやすかったです。

●第二部で質問やもっと聞きたかった点
・　関西だけでなく、他の地域にもこのような支援の輪を広げていくためには何が必要か
・　大学、支援機関、企業連携のありたい姿
・　行政との取り組みは？
・　GATB のアセスメントについて、出来ることへの自信がつくことについては、いずれにおいても役立ちますが、障がい者対象の求人ではなく、一般の新卒求人を目指すことにした場合、新卒求人では「総合職」等の求人が多い中、どんな分野に繋がった、みたいな事例があればお聞きしてみたいと思いました。

●全体を通じての感想
・　札幌で大学生支援を行っていますので、大変勉強になりました。ありがとうございました。
・　実際に各大学で温度差がありますので、今回の 3 大学のように、外部支援機関と連携をとってくださるところが増えてほしいと感じています。
・　各教育機関の特色について学ぶことが出来て大変勉強になった。特性がある方の支援についても相談支援の中で学んだことを活かしていきたいと考える。
・　自分 1 人じゃなく、同じように困っている人がいること、学校以外にも頼れるところがあることを知ってもらう大切さを改めて感じることができました。
・　本学の取り組みは、学生への情報提供が中心で、まだまだ至らない事が多いです。大学生だからこそ就職が困難な実情がある中、個々の学生がより良い選択ができるような環境づくりや、より実践的な取り組みをするためには部署間連携や外部との連携を行ってまいりたいと感じました。
・　本学では、何もまだまだこれからという状況ですので、非常に勉強になりました。
・　参考になる話が聞けて良かったです。
・　勉強になりました。
・　大学ってこんなに就労支援しているんだーとただただびっくりしました。ただそれも一部だというお話を聞いたので、なかぽつという地域資源として何ができるのかを考え直したいと思いました!
・　参加できてよかったです！
・　ステキな機会をありがとうございました！
・　各大学とも発達特性のある学生に対する就職支援に共通の課題を持ち、JSN 様とオーダーメイドのプログラムを毎年丁寧に検討されてる実際を知ることができ、とても良い機会をいただきました。また、学生の卒業後を見据え、外部機

関と繋がり、伴走を移行していく大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。
- 同じ法人で働いていてたまに発達事業部の話は聞きますが、具体的に事業の取り組みが社会に対してどのような効果、成果を残しているのかをお聞　きする機会がなかなか無かったので、よりイメージが具体化されました。
- 村田先生のファシリが素晴らしかったです。
- 関西での取り組み内容を知れて良かったです。
- 学生の就職という点で、非常に悩ましいこととして、「新卒」の障がい者求人の数は、少ないというのが実態だと感じていました。
- 障がい者雇用なのか？、一般求人での就職を目指すのか？についても苦慮している学生は多いと思います。
- なんとか行けるところをという発想になってしまうこともありましたが、それ以前問題として、「できる」ことを知ったり、一人でないことを知ったりしてもらえる環境を作っていくこと自体に意義があると感じました。

●今回のイベントにおいて改善してほしい点
- 行政や企業の視点も知りたかった。
- 大変わかりやすく、有意義でした。有難うございました。

（結果から）

第一部は、関西大学・信州大学・神戸学院大学と JSN が提供したそれぞれのプログラムの効果を報告していただいた。提供したプログラムは、単発ではなく年間を通して複数回行うことで課題やニーズが明らかになることや、担い手が修学支援の部署であっても、就職を見据えてプログラム内容を加味することで、学内のキャリアセンターとの連携を図ることを参考になることが感想から読み取れた。また在学中から外部の支援機関を知る機会を講座で設けることで、在学中～卒業後の相談先スムーズに地域移行がしやすくなることへの共感が感想からうかがえた。集団で行う学内講座に関しては、自助的な要素となりうることで学生同士が安心感や自己肯定感を高まるといった期待も参加者からの声であった。

プログラムを実施までの学内の部署を巻き込んで連携を行っていくことの労力は大きいが、就学支援、就職支援と部署間の連携や学外との連携の必要性や重要性などを加味し、プログラム後の学生支援の効果がより高くなると考えられる。企業の参加もあり、新卒の障害者雇用での採用のニーズのより高まってくると予想され、今後は企業の視点や行政の視点も取り入れたイベントを行うことで各地域に根差した学生支援をより検討できると思われる。